

想像界の生物相 チベットの占術ダイアグラム

むらかみ だいすけ
駿河台大学准教授 村上 大輔



資料名 | 占術ダイアグラム
標本番号 | H0205668
地域 | モンゴル
サイズ | 縦 62cm × 横 66cm

*撮影：大道雪代

「チベットの占術ダイアグラム」と名付けられた魅惑的な絵画がある。曼荼羅のようにグリッド状に仕切られていながら、得体のしれないものが乱舞している不思議な絵画である。この絵画にはいったい何が描かれているのだろうか。

◆◆◆ 十二支の組み合わせ ◆◆◆

まず目に入ってくるのは真ん中の大きな怪物である。これは古代中国において大地を支える神獣とされた亀であり、斑点模様ままとの体を纏い、腹部をこちら側に向けている。その腹部はデフォルメされ正方形となっているが、その外縁部には龍、蛇、馬などの十二支が描かれている。一方、絵画の上端と右端に小さなマスが連なっているが、ここにも十二支の神獣が描かれている。それも



左上部分の拡大。左から子丑寅卯辰巳の干支。下部の三列はそれぞれの干支に配された九宮の数字

なぜか下半身は蛇（龍）のようになっていてから面白い。左上から子丑寅と始まり、右下端まで計六〇マス描かれているのは、宇宙の元素である五行（木・火・土・金・水）が各々の干支に割り当てられているからである。

「九宮」とよばれる概念がこの表をさらに複雑にしている。六〇とありある干支と五行のそれぞれの組み合わせには、一から九の数字のうち三種類の数が割り当てられており（例えば、木の子年には一、四、七、この絵画には計一八〇年分の十二支・五行・九宮の組み合わせが網羅されているのだ。チベットの占星術においては、干支や五行だけではなく、生まれ年の九宮の数字が重要な要素になっており、このダイアグラムを見れば即座にその数字を同定できるようになっている。

◆◆◆ 吉凶を占う ◆◆◆

再び亀の腹部の中央部に視線を移す。そこにはまるで密教の金剛界曼荼羅のような円と正方形の幾何学文様が見える。それらは九宮の占いの計算に使われる数列であるが、方位占いで用いる八卦の文様とそのダイアグラムも描かれている。占われる人間の八卦の種類を性別と年齢で割り出し、そ

れを東西南北など八方向それぞれに配された八卦の種類と組み合わせることにより、当人のその年における方向の吉凶を平易に同定できるようになっている。

亀の周囲にとろろ狭しと描かれたものは、トルコ石やサンゴなどの宝石や羊肉、金剛杵しよなど財産や力を示すような凶柄のほか、虎が死体を食べているものや犬が人頭をくわえているもの、そして魔牛が死体を運んでいる凶といった不吉なものが多々見られる。なかには僧侶の悪霊や「魔の屠殺人」「狂った女」といったものまで描かれている。これは方位占いにおいて、出くわす可能性のある可視不可視の吉凶を具体的に描いたものだと考えられる。

チベット・モンゴルの大草原。遊牧民のテントのなかで、巡礼中のラマが同じく巡礼をしている俗人に占いを乞われる。ラマは折り畳まれたこの絵画を懐から取り出し、静かに地面に広げる。すると即座に、そして威厳をもって、相手に吉凶を言い渡す。そのラマはこの占術ダイアグラムの合理性とグラフィックな物語性によって、「神がかり」ともいえるそんな離れ業をやっている。それがいいであろう。そんな想像が湧いてくる。

※本稿は『畜養と怪異——想像界の生きものたち』に掲載されたラマに加筆・修正したものです。